

あふれる小供の

笑顔から



国際児童年1979

明るくたくましい子供に育つことを願って

宝小PTA会長 園田寅次

国際児童年といっても大人はその意義をほとんど知っていません。「世界の子供の年」と字を見て判断する程度の認識ではないでしょうか。そういう私もその一人でありますが、国際児童年の主旨は、世界の子供の現況を知らせ合って理解を深め、人類の悲願である世界平和実現につながるのが目的であると思えます。

子をもつ親の一人として、身近な問題を卒直にのべます。親はだしも我が子に健全に育ってほしい、逞しく育ってほしいと願っておりますが、現実には遠いようです。多くの子供を見て健全だと思いう子、逞しいといえる子供が何人目にくくでしょうか。私の眼鏡が曇っているのであれば幸ですが、親は子供に過保護すぎて逞しい体や健全な考え方のしつけを忘れてはいないでしょうか。学校の成績だ

けを気にして子供の成長を計っているように見えます。「知識は知恵の門であり知恵は技術」ともいえます。技術は行動して身につくもので、理論でしつても行動はともないません。生活は知恵ともいえます。身近な親子兄弟から社会国家全人類が楽しく生きぬく道も、親子が共に行動するなかで学ぶ協和の知恵こそ、世界平和実現の原点ではないでしょうか。



国際児童年にちなんで

都留一中 三年 鈴木 幸

「子ども」それは、輝かしい未来を背負う大切な宝である。私達は毎日自己の夢を追い明日の希望に胸をはずませて、明るく活気のある生活を送っている。然し、そんな夢を追うこともできず、暗い生涯を過ごす必要はない子ども達も、世界中にはたくさんみられる。食べ物も満足に与えられず、粗末な衣服を身にまとい、不安な日々を送っているベトナムの

子ども達、車椅子に乗った身障者達、その他、世界中にはたくさん恵まれない子ども達がみられる。このような恵まれない子ども達に、明るい未来と幸せを与えるために、世界の国々が提唱して設けられたのが国際児童年である。この年にちなんで各地で種々の記念行事や慰問など福祉的ものが実施されたが、たいへん喜ばしいことである。この国際児童年を契機に、世界の国々で明日の世界を背負って立つ子ども達に、夢と希望、明るい未来を約束してやれるなら、二十一世紀は世界中が明るく幸福に、そして、平和な社会が実現するであろうと思う。

国際児童年に思う

都留一中教諭 中野舜一

今年国際児童年に当たり、児童(生徒)の福利を保護する世界的運動が国連を中心に世界各国でとられ、日本でも子供の成長にふさわしい環境づくりを中心として、種々の対策がとられています。この機会に、私たちは、身近な自分の子どもに何をすればよいかを考えてみたいと思います。私たちが子供だったころとくらべ、経済的には豊かになり、勉強する時間も十分とれるようになりました。その反面、行きすぎた子供中心の考え方や、過保護な養育が子供の心を弱め、困難を克服する意志の弱さ、自己中心的なわがまま

有害な本は見ない! 読まない! 買わない!



この月間中は、悪書追放運動を一層活発に展開していますので、市民の皆様方のご協力をお願いいたします。

11月1日～11月30日まで全国青少年健全育成強調月間が実施されています。

- (一)子供の要求にはすぐ応ずることなく、子供の立場に立つて一諸に考え、話し合う中がまんすべきことはがまんさせる。(二)家族の一員として適切な家事の分担を責任をもってさせる。(三)子供の生活全般に気をくばり、親の子供への保護としつけの指導をする、ことができると思います。発展、発達の途上にある子供の心(考え方や感情や態度)などは、そのほとんどの部分が家庭での生活経験をおして作られるものです。その意味で明るく楽しい健全な家庭を作ることが、子供の幸せにつながり、社会の有用な一員となり得るのではないのでしょうか。